

改革指標として

日本版ランキングを  
活用するためのポイント

偏差値とは異なる  
大学選びの新しい基準

昨年9月に発表されたTHE世界大学ランキングは、研究力を重視しているため、国立大や、総合大、理工系大のランキングがめだちました。それに対して教育力を重視した日本版ランキングでは、私立大、単科大や、人文社会系の大学も多数ランクインしています。

また、入試難易度とは異なる視点で大学を評価している点は、社会環境や構造の変化に伴い、求められる人材像や能力が変わりつつある今、高校生が、自分に合う大学、成長できる大学を選ぶ際の指標になり得るのではないのでしょうか。

実際、高校教員からは、「生徒を伸ばしてくれる大学はどこか？」という質問が絶えません。今回行った高校教員の評判調査では、全国の高校の約半数から回答を得ることができました。大学の

教育力の「見える化」に対する期待の大きさを感じます。

複数の指標を組み合わせて  
ポジションを確認する

今回発表されているのは総合ランキングと分野別ランキングですが、これらを組み合わせると新たな見方ができます。

例えば「教育リソース」は、教育力のポテンシャルを示す指標ですが、これだけでは実際の教育に反映されているかどうかはわかりません。「教育満足度」や「教育成果」と併せて見てみるとどう

指標を組み合わせる、  
教育のパフォーマンス

(教育満足度 + 教育成果)

教育リソース

||

教育伸長度

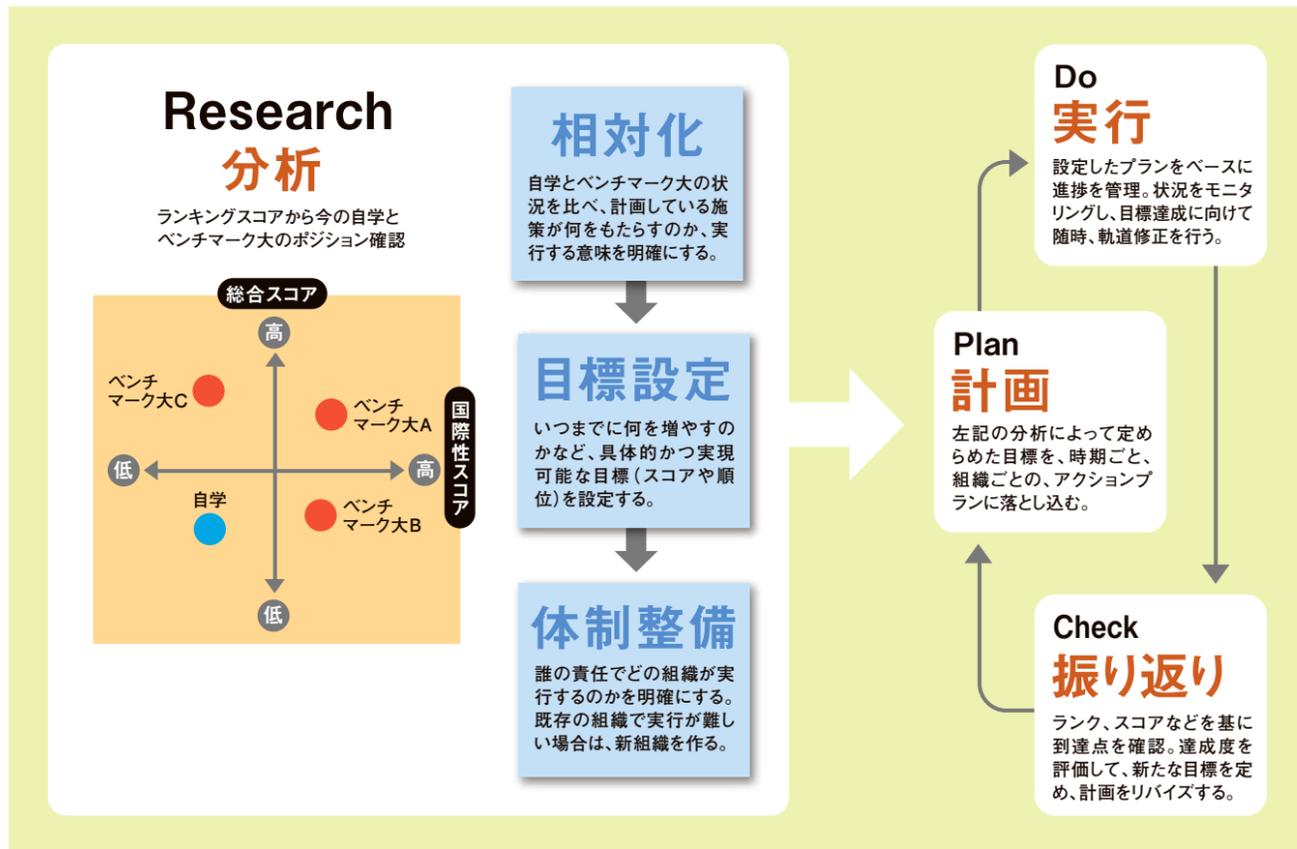


(株)進研アド  
グローバル企画室 室長

横山 俊介

よこやましゅんすけ(株)ベネッセコーポレーション 高校事業部を経て現職。THE世界大学ランキング分析、留学促進施策研究、英語力向上プログラム開発など、大学のグローバル化を総合的に支援。

改革指標としてランキングを活用するためのR-PDCサイクル



評価されたこととなります。これまでステークホルダーに伝えにくかったその教育力を、客観的に伝える手段として日本版ランキングを活用することができると思います。

また、THEの日本版ランキングは、日本国内だけでなく世界に向けても情報発信されています。この点は、他の大学ランキングとは大きく異なる点です。THEの世界大学ランキングサイトにアクセスすると、ランキングページのめだつ位置に、「Japan University Rankings」の表示があります。外国人の留学希望者が留学先として日本の大学を選ぶ可能性も高まることでしょう。

他にも、海外の研究者の招致や海外の大学との提携の際にも、日本版ランキングの情報が活用されるのではないのでしょうか。

THEの世界版ランキングには、日本の大学が69校ランクインしており、非英語圏では最多です。このことは日本の大学全体のレベルが世界的に見ても高いことを示しています。

世界に日本の大学のよさをもっと伝えることができれば、世界中での日本の大学のプレゼンスはさらに高まるのではないのでしょうか。今回の日本版ランキングは世

しょうか(上段左の図表。「教育リソース」が高い割に「教育満足度」や「教育成果」のスコアが低ければ、「リソースを生かし切れていない」「パフォーマンスが悪い」という見方もできます。逆に、「教育リソース」のスコアが低くても、「教育満足度」や「教育成果」のスコアが高ければ、「学生をよく伸ばしている」と言えます。

また、「国際性」は、総合順位がランク外の大学も高スコアを獲得している特徴的な分野です。「国際性」と総合順位スコアを併せて見ると、その大学の特徴がわかります。このように、総合順位や各分野の結果を複合的に分析すると、各大学のポジションがより鮮明に見えてきます。

**優れた教育力を  
世界に発信できるメディア**

今回、総合順位150位以内のランキングした大学は、教育力においては、国内では上位であると

界に向けて日本の大学の教育力を情報発信する有力なプラットフォームとなるはずですが。

**改革の根拠となる  
エビデンスとして活用**

日本版ランキングの順位やスコアは、大学改革のKPI(重要業績評価指標)としても有用です。改革を成功させるための鍵は、目標の妥当性や実現可能性を共有するための「分析」にあると言えます。分析を進めていく際の流れを、上の図にまとめてみました。

Researchをすることによって、改革を実行する意味、具体的な目標、実行体制を明確にしておけば、学内でPDCのサイクルがスムーズに回りやすくなります。さらに、めざすポジションにある大学と順位やスコアを比較することにより、「あとどれだけ伸ばせばいいか」を、根拠を持って示すことができます。

大学ランキングは、3つのポリシーに基づく大学改革を進める際のエビデンスとして活用してこそ、その真価を発揮します。特に今回の日本版ランキングは、教育力と国際性の視点から、特色強化、弱点補強、認知度向上に役立ててほしいと思います。

英語版  
公式サイト

日本語版  
公式サイト